

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

# ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

## 経営者への活きた言葉

### 先代が残してくれた言葉を受け継ぐ 玉置 半兵衛 (半兵衛麩会長)

1. 手前どもは「半兵衛麩」と申しまして、京都の五条大橋の近くでお麩を作っております。私で 11 代目、創業から数えて 328 年になります。老舗（しにせ）と呼んでいただくこともあります。実はこれ、先代が嫌がっていた言葉です。店が老いたらしまいや。しにせの「し」が「止」になり「死」にならんように、いつも新たな気持ちで「新店」（しんみせ）にならないかん。「しん」は「進」「清」「慎」「心」…どれも大事。時には「辛」もあるけど、「辛」抱や。父はそんな話をあれこれと、幼い私にしてくれました。
2. ええか、しゃべることを「言」うと書く。ニンベンを付けると「信」や。しゃべることは「云」うとも書く。ニンベンを付ければ「伝」。人はやるべきことをちゃんとやり、言うべきことをしっかり言ってこそ、伝わり、信じてもらえる。お客様にも、一緒に働いてくれる人たちにも、ちゃんと、感謝の気持ちを伝えなさい。そうして「信」じ合う「者」が集まってこそ「儲」けになる。もう一度分けて「信」と「者」の信者。「この人の言うこと、やることは間違いない」と相手に信じてもらえてこそ、商売を続けることができる。父はそんなことを話してくれました。うちは「麩」っと吹けば飛ぶような商いですが、馬鹿正直にやっていたら、誰かがちゃんと見てくれる。安易に道を曲げてはいけません。濡れ手で粟なんて一時のこと。それよりも「心」を込めて麩を作ることです。  
(参考:「日経ビジネス」2017 年 4 月 17 日号)

## 経営者のための理念・哲学

### 地方人・日本国民・国際人 童門 冬二 (作家)

1. 私が師をいろいろな角度から捉える中で一番印象に残ったのは、大先輩・吉川英治さんの「我以外皆我が師」という言葉でした。また、松田松陰は「学べる人からいいところ取りをし」と言っています。他に欠点があったとしても、どこかいいところがあったらそれを学び取れとうことです。
2. 松陰の師である佐久間象山の言葉に「私は松代（長野県松代町）人である。しかし、地方人でありながら、日本国民であり、世界人でもある」とあります。これは、一村一品運動で知られる平松守彦・元大分知事の説いたグローカリズムに通じるものがあります。つまり、日本人は地方人であり、日本国民であり国際人という三つの人格を持っている。松陰が社会や自分を見つめる視点は、象山から教わったこの三つだと言ってもいいと思います。  
(参考:「致知」: 2017 年 7 月号)

## 人事・労務について

### 動き出した「かとく」

1. 東京・九段第 3 合同庁舎の 13 階。ここに東京労働局の精鋭部隊で結成される通称「東京かとく」が詰めている。「かとく」とは、「過重労働撲滅特別対策班」のこと。悪質な長時間労働を取り締まる専任組織として、ちょうど 2 年前にできた。厚生労働省にある「本省かとく」が司令塔。東京労働局（東京かとく）と大阪労働局（大阪かとく）が手足となる実働部隊だ。
2. これまで、労基署は事業場単位で一件一件シラミつぶしに取り締まってきた。だが、「かとく」のターゲットは大企業本社。企業単位で効率的に取り締まることができるようになった。標的もブルカラーからホワイトカラーへ移り、「四大ターゲット」は次の通りだ。  
(1) ホワイトカラーや管理職（ホワイトカラーの過重労働も見逃さない）(2) 相変わらずの悲惨業種（運転手、建設、介護）(3) 大企業の本社（かとくを設置し全国展開。特にリーディングカンパニー）(4) 正社員だけでなく非正規も。  
(参考:「週刊ダイヤモンド」2017 年 5 月 27 日号)

## 古典に学ぶ

### 青少年に大事な徳

(解説) 立派な名、自己の評判、「自分の不死の部分、それ以外のものは獣と同じ」は、その名の高潔さが侵されでもすると、恥を感じることを当然のことと考えた。恥の感覚（レンチシン「廉恥心」）は、青少年の教育で大事に育てるべき最初の徳の一つであった。「笑われるぞ」、「名が汚れるぞ」、「恥しくないのか」といった句は非行青少年の行動を正すための最後の訴えであった。

(参考: 佐藤全弘 (訳) 新渡戸稲造「武士道」: 教文館)